

岐阜県嚥下障害研究会
モグモグ通信
 No. 21 (2013. 1 発行)

事務局が土岐市立総合病院リハビリ部内へ移動しました。



発行所：岐阜県嚥下障害研究会
 事務局：土岐市立総合病院 ST 室

「多職種連携の重要性」

岐阜県嚥下障害研究会
 理事 林 哲次
 (岐阜県歯科医師会・地域医療委員会 かも歯科医院)



第15回岐阜県嚥下障害研究会学術講演会に参加された会員の皆様ありがとうございました。また、5名の講師の先生方はじめスタッフの皆様、本当にお疲れ様でした。参加者総数250名余り、講演は大成功だったと思います。

私は歯科医師となって24年、訪問診療も勤務医1年目より携わり24年になります。最近の若い歯科医師の先生方はしっかりと教育を受けていると思いますが、私の年代以前では、大学時代の教育は健常者の咀嚼機能が主で、障害児者への治療や関わり、摂食・嚥下障害に対する治療や対処法などの教育はほとんどされていませんでした。そのため、来院される患者さんや訪問先の患者さんから、最近食べにくくなったとか、飲み込みにくくなったとかの訴えがあると、私はそれまで咀嚼機能の問題(虫歯、歯周病、不適切な義歯等)という視点で診査・治療をしていましたが、なかなか思うような治療結果が得られないこともしばしばでした。

そんな悩んでいた10年ほど前、摂食・嚥下の治療に携わる職種の人より、それは嚥下の問題ではないかとアドバイスを受け、それ以降、治療の際には心の片隅に“ひょっとしてこの患者さんは摂食・嚥下障害があるかも”との視点も持つようになりまし。摂食・嚥下障害であろうと思われる患

者さんや嚥下障害に陥るのではと思われる患者さんがいると、参考文献を読んで自分なりに勉強したり、専門職種の人にアドバイスを求めたりしながら、つたないアプローチ?をしてきました。

そんな中、4年前に友人の歯科医師より「面白い勉強会があるから」と誘われて参加したのがこの岐阜県嚥下障害研究会の初級課程研修会でした。そこには看護師、OT、PT、ST、栄養士、歯科衛生士、養護学校教諭、施設介護職員など、日ごろの診療ではあまり関わる機会も少ないと思われる多職種の顔ぶれがあり、摂食・嚥下障害に関わる職種の多さや、対応がいかにか多岐にわたるかを改めて認識させられました。

その多岐にわたる対応を実現するには、多職種の連携は必須です。どの職種にも、それぞれの守備範囲があり、得意とするジャンルもあれば、法の縛りによって行えない行為もまたあります。それぞれ異なるニーズを持つ患者に十分かつ適切に対応するには単独の職種では不可能といえるでしょう。この研究会に入会させていただいたことは、知識や技術の向上に役立つだけでなく、歯科の通常業務だけでは関わることのなかったであろう職種の方たちと広く交流の機会が持てるという意味でも大変プラスになっており、嬉しく思っています。



第15回 初級課程講習会 レポート

「自らの摂食・嚥下リハ見直す」

医療法人仁寿会
サニーサイドホスピタル
言語聴覚士 吉村 みゆき

言語聴覚士歴2年目、初めてこの講習会に参加し、大変有意義な時間を過ごしました。

初めに摂食・嚥下リハビリテーションについて、自分の現在の仕事を見直すととてもよい機会を頂いたという点です。肺炎の怖さ・嚥下反射と咳反射の回復の差・昼夜の反射の差など、学生の頃より更に詳しい知識以外に、摂食・嚥下のメカニズムから訓練法という基礎的なお話を伺いました。「アイスマッサージ部位で咽頭後壁とは見落としていたなあ。嘔吐反射は強くないし、効果的かもしれない。」「脱水症状を疑われた患者様に、点滴以外に、私に出来た事は？」患者様の顔が次々目にかび、それぞれの評価や訓練を色々振り返ることが出来ました。

第2に、楽しく、のみにくさ体験をしたことです。エビせんを嚥下直前の状態を、隣の方と見せ合いました。ペースト状の食塊が舌の真ん中にありました。隣の方の口の中をまじまじと見たのですが、自分が見られる時は少し緊張し口臭がしないように息を止めました。舌を動かさずにのむ、開口したまま噛む等課題が課せられました。エビせんはおいしい筈なのに、おいしく食べられないのみこみ難さを体験し、患者様の日頃の食事での気持ちや疲れやすさ・ムセの原因について考えました。舌の運動低下や口唇閉鎖不全などが、誤嚥の危険性をいかに高めているか、適切な食形態がいかに重要か学びました。

第3に、先生方が丁寧に質問に答えて下さった

平成24年8月26日(日)

講師：加藤孝憲氏 土岐市立総合病院 言語聴覚士
(研究会副会長、日本摂食・嚥下リハ学会認定士)

川口千治氏 朝日大学附属病院 歯科衛生士
(研究会 理事)

豊島義哉氏 木沢記念病院 言語聴覚士
(研究会会長、日本摂食・嚥下リハ学会評議員、認定士)

場所：木沢記念病院 中部療護センター

ことです。義歯の食べる以外の効果については「歩行訓練時に力を出す、明瞭に話すためにも重要。相手に伝わらない経験を繰り返すと、患者様は話す意欲を失ってしまう。患者さんの気持ちによりそって装着の判断を。」とても大切な事を教えて頂きました。

最後に隣の方との交流が出来た点がよかったです。遠く飛騨からの素敵な管理栄養士さんでした。働く施設も職種も違う方との情報交換で刺激や元気を一杯頂きました。

先生方・皆さまありがとうございました。



年会費納入について

納入金額：平成24年度分 会費 1,000円

納入期限：3月末日まで

前年末納者は2,000円

振込先：郵便振替 加入者 岐阜県嚥下障害研究会
口座番号 00890-3-114142

* 通信欄に「〇〇年度分会費」とご記入願います。
* “振替用紙の控え”をもって 会員証とします。
* 2年間会費を滞納すると、自動退会となります。

(注) 未入会者は 入会申込み手続きが 別途必要!

問い合わせ：土岐市立総合病院リハビリテーション部
言語聴覚士 加藤まで



**成人勉強会
レポート**

「仰臥位より腹臥位」

社会福祉法人いぶき福祉会
第二いぶき
看護師 白木 寿子

モグモグ通信の原稿を依頼され、「わかりました」と返事をさせていただいたのに、「何を書こう？勉強会ではうんうんと納得することはばかりだったのに、文字でどう表現すればいいのだろう？」と悩んでしまいました。そこで、何を学んだのかじっくり振り返る機会とさせていただきました。

以前、藤田保健衛生大学の富田昌夫教授に「ゆすり」の頸部緊張の抜き方を教えていただきました。今でもわからないなりに、現場で緊張の強い利用者さんがマット上で楽に居られるように「ゆすり」を取り入れています。が、前回の勉強会でも、頸部の緊張の抜き方はうろ覚えで、本当にこれであるのか？緊張が抜けているのか？と不安もあり、もう一度勉強させていただきたく参加しました。

今回は一日での講演と実技で、内容も濃く、実技でも先生の手は魔法の手のように緊張が抜けていくのが目に見えてわかりました。実際に受

平成24年9月22日（土）
内容：摂食・嚥下障害に対する理学療法的アプローチ
～呼吸・筋緊張の改善を目指して～
講師：富田昌夫氏
藤田保健衛生大学医療科学部
リハビリテーション学科 教授 理学療法士
場所：土岐市立総合病院 核医学棟 大会議室

講者の看護師さんと二人でペアになって体験してみましたが、先生のされるようにはできず…「どうやればいいんだろう？」の連続でした。見よう見まねでやってはみるものの、緊張の抜き方はどうしても真似できませんでした。でも、仰臥位では、緊張を抜いても手足を動かすことにより、すぐに緊張が高まってしまふ。しかし、腹臥位では緊張がもどりにくいことが先生の講義と実技を見て実感しました。

私の施設では、日中は車椅子から降りマットで利用者さんは過ごされます。自分で体位変換できない方や、緊張が強い方も多く、仰臥位で過ごす時間も多いたのが現実です。施設にいるときだからこそ、できるだけ色々な体位を取れるように心がけています。今まで私たち介助者も経験していない腹臥位に挑戦するのは難しいとは思いますが、改めて利用者さんの生活上での体位変換が本当に大切になってくることを感じました。これからも勉強会に参加し、実践で生かせる技術を身につけたいと思います。

You Tube に学術講演会の様子をアップしました
「岐阜県嚥下障害研究会」で検索してください。



第 15 回学術講演会 中濃大会



豊島義哉氏



柴田一浩氏



加藤孝憲氏



玄 景華氏



栗木みゆき氏

日時：平成24年11月25日（日） 場所：タウンホールとみか（富加町）

講演1 摂食・嚥下障害児者のリハビリテーション ～病院、施設、学校、在宅そして介護予防～

豊島義哉氏（岐阜県嚥下障害研究会長、木沢記念病院 言語聴覚士）

講演2 小児の摂食障がいへの取り組み「楽しくおいしく食べるために」～療育現場で大切にしていること～

柴田一浩氏（研究会理事、岐阜県立希望が丘学園 医療部訓練指導課 言語聴覚士）

講演3 摂食・嚥下障害児者のリハビリテーション ～評価（VE，VF）から対応～

玄景華氏（研究会副会長、朝日大学歯学部 口腔病態医療学講座 障害者歯科学分野 歯科医師）

講演4 摂食・嚥下障害へのバルーン法の実際

加藤孝憲氏（研究会副会長、土岐市立総合病院 リハビリテーション部 言語聴覚士）

講演5 在宅における摂食・嚥下障害児者のリハビリテーション ～訪問歯科衛生士の立場から～

栗木みゆき氏（研究会理事、岐阜県歯科衛生士会副会長、

多治見口腔ケアグループはねっと 歯科衛生士）

12：10～13：30 書籍、嚥下障害補助食品、歯科関係の展示・配布

後援：岐阜県医師会、岐阜県歯科医師会、岐阜県看護協会、岐阜県歯科衛生士会、岐阜県栄養士会

岐阜県理学療法士会、岐阜県作業療法士会、岐阜県言語聴覚士会、岐阜県老人福祉施設協議会

岐阜県居宅介護支援事業協議会、岐阜県デイサービスセンター協議会



新役員が承認されました▼

▲書籍、嚥下障害補助食品、歯科関係の展示・配布



駐車案内

来年は高山で！

スタッフ一同

一 編集後記 一 第15回学術講演会中農大会を盛会の中終えることができました。これも会員ならびに関係者の皆様の摂食・嚥下障害への関心の高さの賜物と感謝申し上げます。14年前に研究会が発足し、試行錯誤だった研究会役員をはじめ会員一人ひとりが、現在、各現場で摂食・嚥下リハビリコーディネーターとして日々奮闘していることを確認できた大会でもありました。（TOYO）